

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 28 年 3 月 28 日

所属部局・職	野生動物研究センター・博士課程学生 1 年
氏名	齋藤 美保

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
新潟県妙高市
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
笹ヶ峰実習 (積雪期)
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 28 年 3 月 23 日 ~ 平成 28 年 3 月 27 日 (5 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
松沢先生、杉山先生、幸島先生、滝澤先生、秋山さん
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
本実習は積雪期において山スキー、わかんじきの基礎技術を取得することを目的として行った。
山スキー 通常のスキーを経験したことはあるが、山スキーは初めての経験であった。今まで、スキー場でターンをするときに屈伸をしながら滑っている人を見かけたことがあるが、その方たちが履いていたのがこの山スキーだったのかと初めて気づいた。初めはシールによって板の滑りが悪くなることや、かかとが固定されていないことに違和感を覚えたが、3 日間滑っているうちに慣れることが出来た。通常のスキーと違って、体を動かすと吹雪の中でも体が温かいのはいいなと思った。ただスネの痛さはスキーではあまり感じたことがないほどの痛さであった。 三日目の朝には新雪がかなり積もっており、ラッセルを経験することが出来た。下山途中のポイントまで時間に遅れずに幸島先生を送ることが目的であったため、みんな黙々と吹雪の中を歩いており、何かの修行のようであった。隊の先頭になるとふかふかの新雪の中を行くため、非常に体力を消耗したが、誰も滑っていない新雪の中を進みながら、視界に誰も映らない広い景色を楽しむことが出来た。三日目の午後には新雪の中を滑る機会がやっと巡ってきた。スキー場に比べると、雪が圧雪されていないため新雪に足をとられてターンをするのが難しかった。杉山先生が上手に滑られていたのもっとスキー技術を教わりたかったが、坂を登ることに体力を奪われ、たったの三回しか坂を滑ることが出来なかった。 四日目は軽めのメニューで牧場までなだらかな斜面を下って行った。天気も良く温かく爽快な気分で滑ることが出来た。途中野生のキツネも見かけ、体毛が真っ黒のようだった。秋には二ホンザルとヘビ以外に野生動物は見ることはなかったが、雪には様々な種類の足跡や、おしこの跡が残っており、たくさんの小動物が生息している様子があった。
わかんじき 山スキー同様、わかんじきも初めて経験した。残念ながら少し溶けた雪の上を歩いたので、次回は新雪の中でわかんじきを体験したい。おそらくわかんじきなして歩いた後にわかんじきを付けて歩くと、さらによくわかんじきの効果を実感できるのではないかと思う。昔からわかんじきは使われていたと聞いているので、昔の方々は沢山の知恵を持っているなと感心した。
その他 秋に比べ人数が少なかったため、台所や寝室が混むことがなく快適であった。ご飯は無雪期と変わらずどの料理も美味しかった。笹ヶ峰はご飯が充実しているので、スキーで疲れた後も元気になった。たき火を囲んで食べたぜんざいとインスタントラーメンは、室内で食べるよりも格段においしかった。 冬季、スキー場から上 (ヒュッテまで) はほとんど人が入ってこないということで、ヒュッテのまわりは非常に静かであった。また、リビングからは雪をかぶった綺麗な山々を眺めることが出来て、非常に贅沢な環境であった。私は無雪期の登山より、積雪期のスキー実習の方がより楽しかった。今回は山スキーの面白さを発見することが出来たので、また次回機会が合えばぜひ参加したい。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



写真1：実習二日目の山スキーの様子



写真2：実習四日目は快晴に恵まれた

6. その他 (特記事項など)

本実習は PWS リーディングプログラムの援助を受けて行いました。実習期間中、ご丁寧に指導して下さった先生方、およびプログラム関係者の皆様に感謝申し上げます。